

報告事項ク

青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果並びに発掘調査
委員会の検討状況について

青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果並びに発掘調査委員会の検討状況
について、別紙のとおり報告します。

平成24年12月27日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果並びに発掘調査委員会の検討状況について

平成24年12月27日
文化財課

平成24年度の青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果及び発掘調査検討委員会における検討状況は次のとおりです。

【青谷上寺地遺跡】 平成24年度（第14次調査）発掘調査

1 調査目的

- (1) 木造構造物、矢板列の性格及び機能の解明
- (2) 湿地における土地の利用法の確認

2 主な調査成果

- (1) 古代「山陰道」と考えられる道路遺構を確認。
 - ・遺構の保存状態が極めて良好であり、低地における官道の構築技法を明らかにすることができた。
 - ・青谷上寺地遺跡が、弥生時代のみならず、古代の地域史や国家体制を研究するうえでも重要な遺跡であることが明らかとなった。
- (2) 弥生時代の木造構造物、溝状遺構を確認。
 - ・第1次調査区で検出された木造構造物の延長部分を確認し、盛土の両側面を横板と杭で固定した構造であることを確認した。
 - ・溝状遺構を3条検出し、そのうちの2条については人為的に埋め戻された状況を確認した。
→遺跡中心域西側の低湿地において、積極的な土地への働きかけが行われていた状況が明らかとなった。

3 発掘調査委員会における主な検討項目

【第1回】平成24年7月4日（水）開催

- (1) 道路遺構の調査方法について
 - ・平面及び土層断面の両面から、道路遺構であることを検証すること。
→その後の調査で、平面的には礫敷きを全面的に検出し、一部断ち割りを行って、礫敷きと盛土層との関係を検討することにより、道路遺構であることを確認した。

【第2回】平成24年11月8日（木）開催

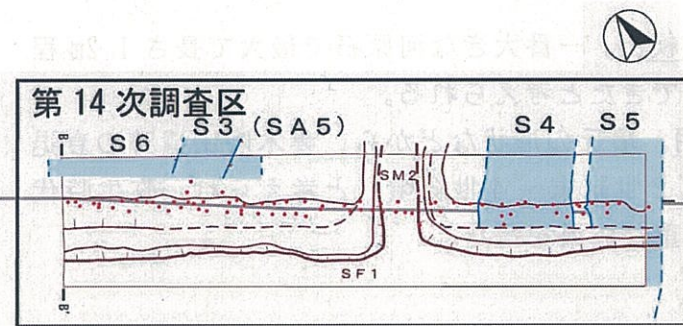
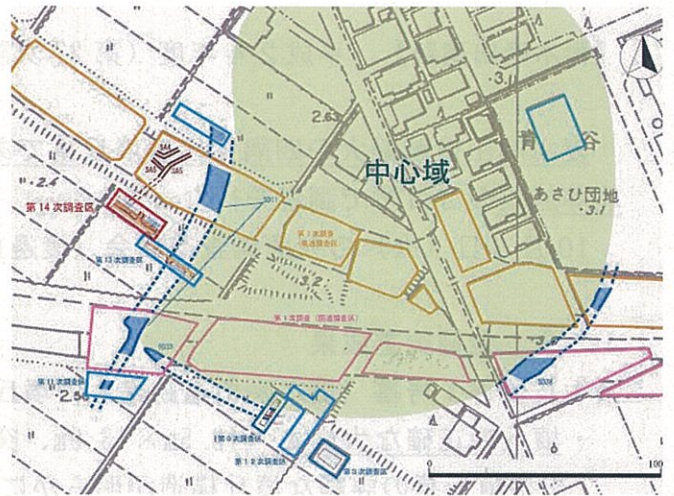
- (1) 道路遺構の評価について
 - ・入念な構築方法であることから、古代山陰道の可能性が極めて高い。
 - ・基底から路面まで良好な状態で遺存しており、全国的に見ても貴重な調査例である。
- (2) 道路遺構の今後の調査方法について
 - ・土層断面はぜひ剥ぎ取りを行い、公開活用に努めてほしい。
→業者委託により剥ぎ取りを実施。
 - ・路面の遺存状態が非常によいので、路面ならでの調査方法を工夫できないか。
→その後の調査で、路面の一部について礫を一点一点記録しながら取り上げることにより、通行痕跡の可能性のある窪みが存在することを確認した。

4 現地説明会

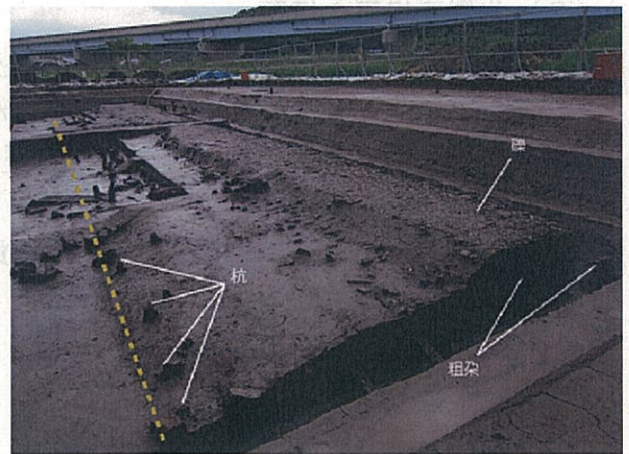
平成24年10月27日（土）に現地説明会を実施し、202名の参加があった。



第14次調査区の位置



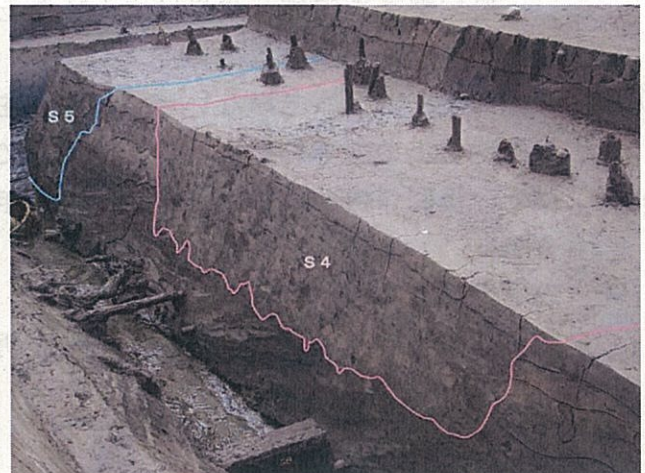
第14次調査区遺構位置図



道路遺構 (SF1) 検出状況 (北から)



木造構造物 (S3)・溝状遺構 (S6) 検出状況 (東から)



溝状遺構 (S4・S5) 埋積状況 (北から)

【妻木晩田遺跡】 平成24年度（第27次調査）発掘調査

妻木晩田遺跡最大の四隅突出型墳丘墓である仙谷1号墓と、その北側尾根にある墳墓の埋葬施設の2カ所で調査を行なった。

10月3日（火）の発掘調査委員会（渡邊貞幸委員長）で調査成果の検討を行った。

1 主な発掘調査成果

（1）仙谷1号墓（妻木晩田遺跡最大の墳丘墓）

- ・墳丘の正確な大きさ（12.5m×13.0m、突出部を除く）や盛土の存在を確認し、四隅突出型墳丘墓の詳細な墳丘構造が明らかになった。
- ・南～西側の面と北～東側の面では貼石の配置に違いがみられ、日本海や淀江平野（当時は潟湖が存在）に面した南～西側を見栄え良くする意図があるものと推定される。

（2）北側平坦面の墳墓

- ・河原石を複数用いて蓋をした埋葬施設を検出。一番大きな河原石で最大で長さ1.2m程度あり、阿弥陀川や日野川などから運んできたと考えられる。
- ・遺物が出土しておらず正確な時期は不明。墳丘の形状などから、妻木晩田遺跡の衰退期である弥生時代末から古墳時代前期（2世紀末～4世紀頃）と考えられ、弥生時代から古墳時代への墳墓の変化を窺える貴重な成果を得た。

2 発掘調査委員会における主な検討状況

【平成24年10月3日（水）開催】

（1）現地での検討内容について

- ・仙谷1号墓については、本来の位置から動いている石等を精査し、本来的な姿を復元できるようにしておくこと。既存の調査成果等についても整理すること。
→追加調査を実施。成果はまとめた上で今後報告。

（2）来年度以降の調査について

- ・今後もよく分かっていない墳墓の解明を目指して調査を継続すべき。
- ・北側尾根上の埋葬施設は、蓋石を開けて内部の調査を行うよう検討してほしい。
→今後関係機関と協議を実施し、来年度の調査内容を決定。

3 現地説明会

平成24年10月13日（土）に現地説明会を開催し、71名の参加があった。



調査地点位置図（むきばんだ史跡公園全体図）



仙谷1号墓（四隅突出型墳丘墓）



石組みの埋葬施設（北側尾根の墳墓）



現地説明会の様子（仙谷1号墓）



発掘調査委員会での検討状況

青谷上寺地遺跡発掘調査委員会 委員名簿

所 属	役 職	氏 名
鳥取大学	名誉教授	赤木 三郎
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	副所長	深澤 芳樹
東京大学大学院 新領域創成科学研究科	教授	辻 誠一郎
島根大学	名誉教授	高安 克己
広島大学大学院 文学研究科	准教授	野島 永

妻木晩田遺跡発掘調査委員会 委員名簿

所 属	役 職	氏 名
島根大学	名誉教授	渡邊 貞幸
奈良大学	教授	酒井 龍一
旭学園	理事長	高島 忠平
立命館大学	教授	和田 晴吾
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	副所長	深澤 芳樹